個人による犯罪は完全にはなくならないが、企業組織の不正は根絶することができる。
　個人犯罪は摘発されても続く傾向があるが、企業においては、不正を止める仕組みや自由に意見を言える風土があれば、不正を防ぐことが可能だ。しかし、ワンマン経営者や上司に誰も意見を言えないような組織では、不正が繰り返されてしまう。

個人犯罪と企業・組織犯罪の違い

■ 個人犯罪は完全には無くせない

動機が多様（金銭・感情・病理・衝動など）

発覚すれば処罰されるというプレッシャーがある

それでも、**「捕まるまで続ける」**という現実もある（薬物・性犯罪・詐欺など）

■ 企業・組織犯罪は「組織文化」で抑止できる

　構造的・継続的に行われる不正（例：粉飾、談合、改ざん）

　チェック機能が働けば防げる

　　内部通報制度（ホットライン）

　　内部監査・外部監査

　　社外取締役や監査役の独立性

　　情報公開・透明性の高いガバナンス

　「物言える風土」が鍵

　　上司や経営者に意見できない組織は腐敗しやすい

　　ワンマン経営は特に危険

まとめ（要約）

個人犯罪は抑止はできてもゼロにはできないが、組織的不正は「健全な組織文化」で防げる。

ワンマン体制や沈黙の空気が、不正の温床になる。